



2005年9月17日

カナダ・パビリオンの巨大なメープル・リーフ、刈谷市の新天地へ

2005年愛知万博カナダ・パビリオンは、同パビリオンの前にそびえる美しいメープル・リーフが、愛知万博の期間中における刈谷市とカナダ・パビリオンのパートナーシップの遺産として、刈谷市内のミササガ公園に永久的に設置されることになったと発表しました。様式化された巨大なメープル・リーフは、カナダのシンボルであり、カナダ・パビリオンの中心的要素になっています。

カナダ政府代表、ノーマン・モイヤーは次のように語っています。“オンタリオ州ミササガ市の姉妹都市である刈谷市のミササガ公園に私たちのメープル・リーフが移転することは、この印象的な構造物にとって里帰りするようなものです。2005年愛知万博へのカナダの参加の記念物が、私たち両国の素晴らしい友好関係の思い出として、刈谷市で生き続けることを非常にうれしく思います。”

愛知万博の6ヶ月の期間中、このメープル・リーフはカナダ・パビリオンで重要な役割を果たしてきました。グローバル・ループの多くの地点から見る事ができる目だった場所にあり、万博来場者にとって力強い標識となりました。メープル・リーフは、万博来場者が、テク人や、パビリオンの前で儀礼的役割を担うカナダ王立騎馬警官(RCMP)を撮影するときの、何百万枚の写真の背景となりました。また、日本の天皇皇后両陛下、高円宮妃殿下、米国のコリン・パウエル前国務長官など、世界中からカナダ・パビリオンを訪れた多くの要人の公式写真用背景としても格好の素材となりました。さらに、カナダ・パビリオンの映像ショーに登場する6人のカナダ人全てと、好評を博したカナダの文化的プログラムに参加したカナダ人アーティストたちの多くが、愛知万博会場を訪れた際に、このメープル・リーフの前で写真を撮影しました。

カナダ・パビリオンでのミササガ・デーの一環として行われた、この特別発表会には、刈谷市とミササガ市の両市長と2005年日本博覧会カナダ政府代表が出席しました。

“当市のミササガ公園に、カナダ・パビリオンからメープル・リーフを受け取ることを、大変光栄に思います。このようなカナダの象徴を保有することは、刈谷市の誇りです。”と、刈谷市の榎並邦夫市長は述べています。

愛知万博へのミササガ市の参加を祝うために、38人の代表団の代表としてミササガ市から来訪したヘーゼル・マッカリオン市長も、同様にこの移転プランを喜んでいます。

ミササガ市マッカリオン市長は“私は愛知万博で多くの人々が感嘆したこの巨大なカナダのメープルリーフが刈谷市のミササガパークにその所在を移すことを大変喜ばしく思います。”とコメント。また“この寄贈は過去24年間そして将来の刈谷市との関係を強めるものである。”と語っています。

カナダで設計され、組立てられたこの大きなスチール製建造物は、158 の再使用可能のパーツで構成され、寸法は高さ 15.24m、幅 11.34m、奥行き 5.37m、総重量は 4,073kg です。メープル・リーフは、一度組立てられ、その後に万博会場に輸送するために六つに分解されました。この建造物は、愛知万博閉幕後、数週間のうちに分解され、刈谷市に運ばれる予定です。このイニシアティブは、環境保全と協調に対するカナダの確固した姿勢に基づくものです。

カナダ・パビリオンについて

2005年愛知万博のカナダ・パビリオンは、カナダの文化、環境、アイデンティティについてマルチ感覚の体験を通して来館者をガイドします。床面積1,000m²強のパビリオンは、再使用と会場環境への影響を最小にすることを考慮して、カナダの技術の粋を集めて設計、建設されました。なおカナダは、この愛知万博への参加を公式表明した最初の国でした。

カナダ・パビリオンは、2005年愛知万博の6ヶ月にわたる期間中、メディアや一般の人々の大きな注目を集め、1日平均で17,000人以上の来館者を迎え、3カ国語を話す39人のホスティング・スタッフたちは毎日を忙しく過ごしてきました。9月25日の閉幕日までに、カナダ・パビリオンへの来館者は、当初の予測数の2倍以上となる、325万人近くに達するものと見られています。